2022年秋季シンポジウムルポ（第86回）

稲川敬介（秋田県立大学）

1. はじめに

2022年秋季シンポジウムは，2022年9月12日（月）に，新潟県の朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにて開催された．今回のシンポジウムでも，新型コロナウイルス感染防止対策のためオンライン開催が検討されたが，実行委員の強い思いにより，現地開催とオンライン開催を併用するハイブリッド開催となった．2019年秋季（東広島芸術文化ホールくらら）以来，実に3年ぶりの現地開催となるシンポジウムであった．最終的に，109名の事前申込みがあり，かつ，当日，現地での参加者は74名と，新型コロナウイルスに対する実行委員の心配をよそに，大変盛況なシンポジウムとなった．

2. 講演内容

今回のシンポジウムのテーマは，「気候変動の社会的影響」であり，4名の専門家によるご講演が行われた．シンポジウム開会時には，シンポジウム実行委員長の鈴木賢一氏（東北大学）により，今回のシンポジウムのテーマの趣旨が説明された．各講演では，近年の度重なる大災害についてリアリティあるデータや画像，気候変動による社会的影響とそれらへの適応についてなど，最新の研究をご講演いただいた．

「変わる前提・変える未来～2018年西日本豪雨（倉敷市真備）の経験を中心に～」

谷口守氏（筑波大学）

最初のご講演では，近年の災害や気候変動のリスクについてサマリーが述べられ，その後，2018年の西日本豪雨の倉敷市真備における事例が紹介された．5mもの浸水があったことなど具体的な被害の状況や，計画済みであった治水工事を始める前の不幸であったことなど，さまざまな視点からの分析が紹介された．そして，現在の治水マニュアル（案）の問題点や，治水と利水の全体的マネジメントの必要性についても指摘された．

「気候変動と水害リスク：少子高齢化と災害環境の激甚化を見据えて今何をなすべきか」

多々納裕一氏（京都大学）

次のご講演では，災害が増えている現状について述べられ，その現状に対応していくという適応戦略が進んでいることについて紹介された．そして，その後，大阪湾における高潮リスクの事例について，RCP2.6とRCP8.5という気候変動のシナリオを用い，一定の仮定をおくことにより，防潮堤のかさ上げに投資すべきという結果が導かれたという分析結果が紹介された．

「気候変動と農家の適応能力：適応行動の阻害要因を考える」

内田真輔氏（名古屋市立大学）

3件目のご講演では，はじめに近年の温暖化について述べられ，気候変動が社会に及ぼすさまざまな影響の一つとして，農業における作物収量の変化に着目した分析について述べられた．農業における不作は自殺にもつながるという国内外のデータや，農業は気候変動に適応する必要があることが述べられた後，農業従事者の適応を阻害する複数の要因について紹介された．さらに，日本においては，高齢化が適応投資インセンティブの低下を促進し，気候変動リスクが増大する現状について指摘された．

「気候変動と都市のOR」

廣井悠氏（東京大学）

最後のご講演では，はじめに防災における基本理念である自助，共助，公助が，日本の低成長時代という背景と多様化する災害時のニーズにより，これまでのようにはいかないだろうという厳しい未来予想が述べられた．そして，これからの災害対策についてのポイントを整理した後，いくつかの研究事例が紹介された．災害疎開による人口移動についてのシミュレーションでは，アンケート調査などの結果を基に，災害が起こった後の人口分布の変化を予測した研究成果が紹介された．また，災害直後の一斉帰宅については，東京

左上：シンポジウム会場の様子，左中：実行委員長 鈴木賢一氏，左下：谷口守氏，右上：多々納裕一氏，右中：内田真輔氏，右下：廣井悠氏

都内の徒歩移動フローの流量の多さや，車両の流量による渋滞予測などにより，その危険性を可視化し，“帰らない”という選択肢の重要性について指摘された．

3. おわりに

シンポジウムのおわりには，中山明氏（福島大学）により，各講演のサマリーとシンポジウムのまとめが述べられた．本シンポジウムによって，気候変動のリスクと課題が精査されたことを受けて，各研究者が災害に取り組む土台が作られたことと，災害研究に対するオペレーションズ・リサーチ学会の役割について話された．

シンポジウム開催後は，今回のシンポジウムを取材した北陸朝日放送が講演の様子を含む番組を製作してテレビ放送した．さらに，この内容は，インターネット動画でも公開（YouTube: 北陸朝日放送公式チャンネル，「気候変動」最新研究と石川県の温暖化対策；youtu.be/phWOuzx7liQ）され，多くの人々が注目するシンポジウムとなった．

今回のシンポジウムは，初めてのハイブリッド開催であった．そのため，実行委員としての苦労もあったわけだが，参加者の方々においても，慎重な検討のうえで現地参加を決めた方が多かっただろうと思う．講演者の皆様とすべての参加者の皆様に感謝を述べて，このルポを締めくくりたいと思う．皆様，ありがとうございました．